

講座づくり
生かしませんか？

この講座で3つのファーストを体感できる

3つのファースト
○参加者ファースト
○会話ファースト
○活動ファースト

参加者が講座の内容を考えます。食事を中心にして楽しんでいきます

研修内容(予定)

第1回(終了)
①おのれ
②札幌等生活支援センターとの交流
③おのれ
④おのれ

第2回(予定)
①おのれ
②おのれ
③おのれ
④おのれ

第3回(予定)
①おのれ
②おのれ
③おのれ
④おのれ

第1回研修会参加者の振り返り(一言)

第1回 9月9日(水) 14:00~17:00
第2回 9月16日(水) 14:00~17:00
第3回 9月23日(水) 14:00~17:00

会場: 仙台市生涯学習支援センター 5F
対象: 社会教育施設職員の方
講師: 尚絅学院大学 教授 松田 道雄 氏

講座づくりの新提案

講座企画研修

3つの「ファースト」を体感して
講座づくりに生かしてみませんか？

参加者ファースト
会話ファースト
活動ファースト

互いの悩みや課題を話し合ったり、他自治体とオンラインで情報交換があったり参加者同士の交流を中心に学びを深める講座です。

第1回(終了)
①おのれ
②札幌等生活支援センターとの交流
③おのれ
④おのれ

第2回(予定)
①おのれ
②おのれ
③おのれ
④おのれ

第3回(予定)
①おのれ
②おのれ
③おのれ
④おのれ

第1回研修会参加者の振り返り(一言)

第1回 9月9日(水) 14:00~17:00
第2回 9月16日(水) 14:00~17:00
第3回 9月23日(水) 14:00~17:00

会場: 仙台市生涯学習支援センター 5F
対象: 社会教育施設職員の方
講師: 尚絅学院大学 教授 松田 道雄 氏

の関心ある内容のを見るので、どこかの公民館が講座案内をSNSで発信したとしても私たちはまったく知ることはない」という声が多く出ました。

受講者(参加者)募集は、いつの時代も第一のハードルです。今回、1回目の講座終了後に、「チラシを2種類つくって、募集対象者(今回は、市民センター職員などの

方々)に直接、どちらのチラシがいいか(関心を持つか)、または、さらに改善したらいいか、意見を聞いてみてはどうでしょうか」と村田さんに相談したところ、さっそく作成くださったものです。皆さんは、受講者目線かどうかのチラシがいいと思われれるでしょうか？

この2つのチラシ案の中身をよく見ると、どちらにも1回目の参加者の声や感想が紹介されています。どのような研修会になるかわからずに事前につくるチラシよりも、むしろ、1回目に行われた研修会の内容を担当の村田さん自身が他者にわかりやすく伝えるような表現の工夫をしてまとめた成果物といった感じ(すばらしい表現だと筆者は感心しました。とても筆者には作成できません)。

この研修会1回目の始めでは、日頃試行錯誤しながら講座づくりを担当されている受講者の皆さんに、この研修会自体も「学びの実験室」のような様相をとる入れ、学ぶことについていろいろな切り口から試行実験してみるような柔らかな進め方をしていることを了解得て行っています。2回目の研修会では、このチラシがどうだったのか、同僚職員の方々から聞いた反応なども持ち寄り、広報についても検討していきたいと思えます。

生涯にわたって
社会のいたるところで学ぶための方法序説

教育の研修会は学びの実験室！

※本連載、本誌HPに無料掲載中！

松田 道雄

提案…生涯学習・社会教育関係の研修会では、学びの実験的試みの様相を積極的に取り入れてみませんか。

「令和4年度文部科学白書」には、子供たちの学びだけでなく、教師自身の学び(研修観)も転換し、「新たな教師の学びの姿」を実現することが示されました。これに対して、生涯学習・社会教育に関わる職員や関係者向けに年間たくさんある研修会では、毎回の研修会の皆様ご自身の学びの姿(充実度)はいかがでしょうか？

それぞれの研修会の実施要項には、目的が明記されており、その目的実現のための内容が示されています。しかし、一般に私たちが経験している研修会は、どのような目的や内容であつても、講義であれば、講師や事例発表者の話をプレゼンスライド見ながら聞く、演習であれば、小グループで話し合うという形

式がイメージとして浸み込んでいる。

研修会は参加者が学ぶ場です。教育関係者は、学校であれ、公民館であれ、よりよく学ぶことを支援する仕事ですので、少なくとも、教育関係者の研修会は、その研修会自体も、学校の授業研究のように、さまざまな学びの工夫、学びの試行実験的な試みがたくさんあつていいように思います。いかがでしょうか？

私も、教育・学びの支援を仕事として一人として、研修会に講師として依頼される場合は、担当の方とのやりとりを通して、毎回、いろいろな学びの試みを担当者の方々とともにさせていただいております。今回は、現在進行形の試みを以下に紹介します。

1. 生きたチラシづくり

資料1・2は、仙台市生涯学習支援センターが主催している、仙台市内の市民センターなど社

会教育施設職員の方々を対象にした講座企画研修のチラシ案です。この講座は3回シリーズで、1回目が終わったあとに講座担当の村田智朗社会教育主事が作成くださったものです。通常、講座や研修会の案内用チラシは、最初に1度作成して案内するだけですが、今回、1回目募集の時のチラシとは別に、新たに2回目用に「教材」としても作成いただきました。

この講座に関する研修会でも必ず話題に上がることの1つは、受講者募集の悩みです。皆様のところはいかがでしょうか？案内チラシをつくったところで、そもそも受講対象者が目にしない、知られない、という話は聞きます。どこに配布すれば見ってもらえるのか？紙チラシ以外の方法はあるのか？よく、「今はSNSの時代だからSNSを活用したら」という意見も出ます。しかし、それについては、先日、授業で学生たちからは、「そもそも、SNSは自分

2. 情報交換の輪

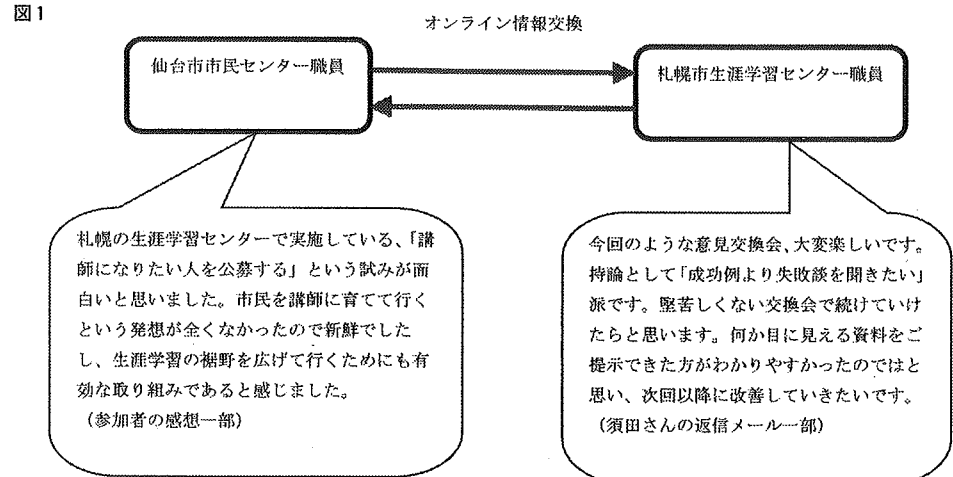
この記事を読者皆様が読まれる時には、9月8日の2回目の研修が行われていることでしょうか。1回目には、昨年度の講座で初めて試みた他自治体職員とのオンライン情報交換も行いました。これは、昨年度の講座で受講者から「他の自治体の講座で担当職員の方々とも情報交換してみたい」という意見を受けて試みたのでした。今年度の1回目の研修会で情報交換に参加くださったのは、札幌市生涯学習センター事業課事業係の須田真彰さんです。お互いに初対面のオンライン交流でしたが、短い時間の中で双方の取り組みを紹介し合い、聞き合い、質問し合うことにより、双方にとってそれぞれの有意義な学びを得ることができたようです(図1)。

これまでの研修会のイメージは、先生が教壇から教えるような学校の授業のように、講師が一方的に知識や理論などを教え

るといった姿でしたが、現場実践者の方々にとっては、それとともに（むしろ、それ以上に）、自分と同じ立場で仕事をしたい

る方々と情報交換をしたという潜在的願いは非常に大きいように思います。コロナ禍を経てオンラインによる交流もごく普通

通になりましたので、ぜひ活用して情報交換の輪を広げる試みもいかがでしょうか？
情報交換は、日常的なメールのやりとりを通して



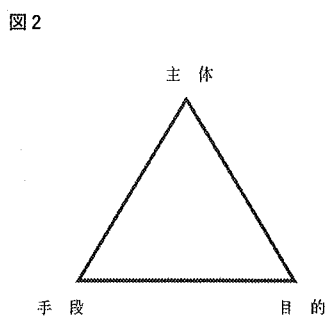
資料3
チラシについてですが、どちらが参加したいかを私を含め5名の職員にアンケートをとりました。
結果、資料1チラシ：4票、資料2チラシ：1票となりました。
資料1チラシへの意見：「ぱっと見て頭に入ってくる、どんな事をするかわかりやすい」
資料2チラシへの意見：「どんな研修会かわかるチラシ」[左下ブロックが縦書きになっていて、横書きにしては]等、ありました。
チラシは目に留まってから数秒の勝負と思っており、私は資料1の方がインパクトあって良いと思っておりました。
しかしながら、資料2の意見を聞き、「なるほど」と思わせられました。
チラシも正解があるようでないものですね。ひとりよがりのチラシにならないよう気をつけたいと思いました。

行うことができます。資料3は、今回の講座には受講されませんでした。同じ仙台市内の旭ヶ丘市民センター主任の兼子博行さんと別件の事業でメールのやりとりをしていた際に、ついでに先の研修会の村田さん作成の2つのチラシを紹介し、意見をもらったメール文です。兼子さんのメールは、村田さんにもお送りしました。のちほど、2回目の研修会で受講皆さんにも情報提供されることでしょうか。

るのではないのでしょうか。
もし、読者皆様の中で、この研修会（2回目9月8日、3回目11月8日）にオンラインで参加して情報交換をしてみたいという方がいらっしゃれば、担当の村田智朗さんにメールで相談してください（村田智朗さんメール：tomoki_murata@city.sendai.jp）。

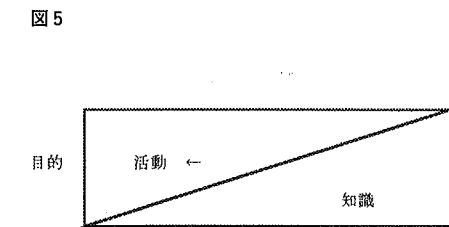
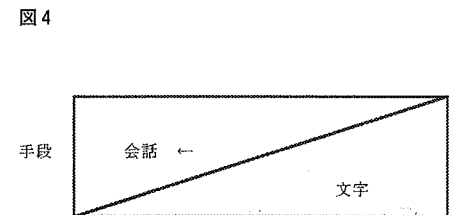
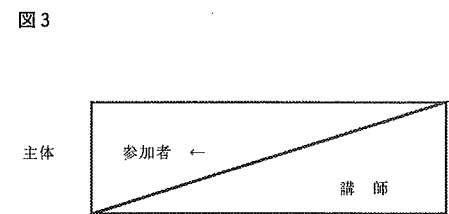
3. 3つのファースト
村田さんが作成された先のチラシの中に「3つのファースト」ということばがあります。この研修会では、講座を運営する際の心がけとして、参加者ファースト、会話ファースト、活動ファーストという3つのファーストを提案し、実際に、それを体感してみる進行を試みました。

「仲間（yellow）ができれば、このような具体的な仕事上のことがらについても日常の仕事の中で意見やアドバイスの交換もできます。また、筆者は兼子さんや他の現場の方々に、講座運営をする職員として心がけていることや信条などもうかがっています。そのような仕事への考えは誰もが持っていることでしょうか、それを互いに学び合うところ、キャリアを磨き高めていく最も大切な学びの一つにな



ることを目的にした学び方が多かったのではないかと思います。それを、できるだけ、参加者が主体になるようにし（図3）、会話を多く取り入れて（図4）、活動をおこなうことをめざす（図5）

この研修会を受講された、学校から社会教育主事に異動された先生は、「『3つのファースト』の話は、中学校の授業の中で自分も意識して大切にしていたことだったので、改めて確認できて良かったです」というコメントをされました。筆者も同じく中学校教員として授業を行ってききましたので（それこそ日々試行錯誤の連続でしたが）、この視点は教育すべてに通じることではないかと思えます。



様々な立場の人との会話は、相手の立場や思いを察することができたり、自分が気づけなかった

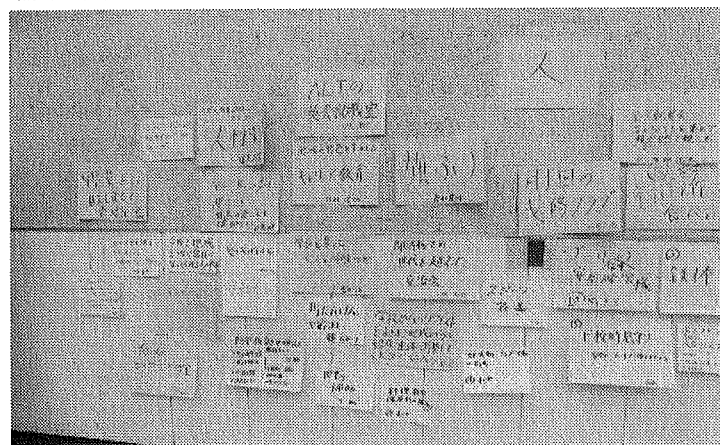
自分自身が主体的に学ぼうとする、自分自身が学びの主体者である自覚を持つということ、なかなか言うに易く行うに難しいことです。現在、筆者は毎週30分、事業継承者として就職したゼミの卒業生から電話で報告を受け談義をしています。彼は入社してまだ1年程度ですが、事業を継承していくには、自分が継承者になるという自覚と目標を持って、指示待ちの姿勢ではなく、主体的に何でも自分から問いかけて聞いて学んでいくという気持ちで日々取り組んでいかねばなりません。それは、最も切実な学習者と言えます。このようなことを、筆者自身も若者に言うのは簡単ですが、では、いざ自分がその立場だったらできるかというところがありません。何時間か集う研修会でも、どれくらい多様な学びを得ようとするか、それは個々人の気持ち次第ですが、参加者皆がその気持ちを持って話し合いをすれば、

資料4 令和5年度地域と学校をつなぐコーディネーター等研修講座第2回
(新潟県立生涯学習推進センター)
演習用スライド(全8枚のうち7枚目)

演習4 こんな地域学校協働活動をしたいな!

- 1 子どもにどんな力をつけさせたいか?
- 2 授業など先生が中心に行うことか?
- 3 先生の労力をかけずに行うことか?
- 4 学校での学び方を補強することか?
- 5 学校での学び方とは異なることか?

写真1 令和5年度学校と地域の連携・協働研修会
(群馬県東部教育事務所主管、6月30日、館林文化会館)



として参加してきます(担当…学習振興課 妹尾雅巳副参事)。両日とも、午前2時間、午後3時間計5時間の一日研修です。で、参加者皆様の思いや課題をじっくり語り合い、具体的な活動について深め合う話し合いができればと思っています。この研修会で話し合いを進めていく

「その他」に分けて、会場壁面に掲示し、皆で見合いました。もし、さらに時間があれば、ここから、各人が行いたい活動について、具体的な内容と方法を深めていく話し合いもできますし、これを最初に持ってきて、そこから研修を始めていくという展開もできるでしょう。

資料5 同 メモ用紙

地域と学校をつなぐコーディネーター等研修講座 第2回 2023年7月20日 講師: 松田道雄 m_matuda@shokei.ac.jp

縦長メモと横長メモどちらがとりやすいかの実験シート

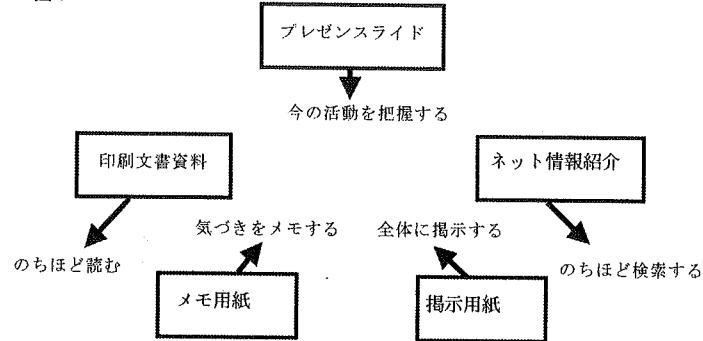
氏名 _____

(まつだ・みちお 皆様の研修会の学びの実験、応援します!)
尚綱(しようけい) 学院大学
教授(宮城県)
連絡先: (m_matsuda@shokei.ac.jp)
※本連載、本誌HPに無料掲載中!

は、資料4のパワーポイントにまとめました。また、こまかな試みですが、メモ用紙は資料5の横長用紙にしてみました。通常のノートや文書は縦長です。黒板やホワイトボードは横長です。皆さんは、どちらが書きやすいでしょうか? 今年度、筆者は大学の授業でも横長用紙を学生に使ってもらっており、の

ちほど、ノートやメモ用紙の「形」についても体験からの意見を聞く予定です。
人生限られた時間の中で、それぞれの関心に応じて学ぶことは多種多様で無限にあります。現代は、YouTubeで好きな番組を観ることもできますし、具体的なことを検索して学ぶこともできます。そのような中で、わざわざ足を運んで集まって学ぶ研修会のあり方は、インターネットが普及する以前と同じやり方を毎年マンネリと繰り返している、それこそ、学ぶことについての実践としてはもったいないことですね。
皆様方のさまざまな研修会の試み、学びの実験もお聞かせいただければ幸いです。

図6



事前にプレゼンソフトで資料をつくった講師や事例発表者は、そのスライドをすべて説明しようとしています。受講者が聞いていようがいまいが、どの程度関心あるうがなかるうか、ひたすら電車が走るようにして用意したスライドを説明していきます。それによって得られる知識や情報もありますが、その時間、別の学びを得ることもできます。先の「3つのファースト」を研究会や講座で行うと、文字の活用という視点からは、さまざま

公民館などでも、市民がスマホで誰でも見ることができるよう日常的に情報公開と更新をしていくことは、日常生活の学

写真1は、この研修会での終盤に、受講者各人が、これからしてみたい地域学校協働活動を書いて掲示した一部です。「人」・「モノ」・「場所」

それはさぞかしお互いに豊かな学びに溢れたものになるのではないのでしょうか。
4. 5つの文字
何事も一長一短があります。すべてが長所だけというのはないでしょう。受講者どうしが会話ばかりしていれば、講師などからの新たな知識を得る時間はない

少なくともありません。そういう意味で、日頃から筆者が感じているのは、あまりにもプレゼンスライド(パワーポイントなど)による説明が常識化しているの、その短所に気づかなくなっているのではないかということです(ネット通販会社アマゾンでは、会議資料はパワーポイントを使わず、ワード文書資料で行っていると創業者の本に書かれています)。

まな媒体と用途で文字を分散化させて運用する講座になります。それを「5つの文字」に分けてみました(図6)。

筆者が受講者の方々にお伝えたい知識と考えは、印刷された紙の文書とネット情報紹介に分け、全体に映すプレゼンスライドは、この場での演習の内容や視点を全体に示します。先の群馬県東部教育事務所での研修会では、担当の三宅利志美さんが、私が口頭で説明したグループで話し合う際の視点をパソコンで打ち込んでリアルタイムに全体に投影してくださいました。また、受講者の方々が研修会時間内に文字を書くのは、自分のためのメモと、グループ演習で話し合ったことをもとに全体に掲示する文字に分けます。全体に掲示する場合の文字は、皆が読める字の大きさを書かなければなりません。